

湘南つばさの家 支 援 会 通 信

「羽包み(はくくみ)」

第二号 (不定期発行)

平成20年12月1日

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪1-12-17

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

電話・ファクス 0467-58-6260

〔ご送金は ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277へお願いします〕

「人の存在」に支えられて

ホーム長 前川 礼彦

福祉とは「人の存在」である。この言葉は数年前、ある先輩ホーム長に教えて頂いた言葉です。私は前職で東京の自立援助ホームに勤めていた時に、少年たちとの関わりから「自立」とは一体何か、「援助」とは何か、そして「福祉」とは一体何なのだろうと、より良い関わりを求めながら日々を過ごしていました。考え抜いた末、それでは全国にある全ての自立援助ホームを回り、それぞれのホームの想いを肌で感じて学んでみたいと訪ね歩いていきました。その出会いから得たものが、湘南つばさの家を作る大きな要素となったのです。

それぞれのホームでは各地の地域性や設立の背景などから、自立援助に懸ける想いは様々ですが、どこのホームも行き場のない少年たちのために何とか出来ないかと真剣でした。少年たちもそんな大人たちの想いに心が響くときがくるのでしょうか。「自分のことを気にしてくれる人がいる」、「自分を受けとめてくれる人がいる」「自分は独りではないんだ」と。

生きていく上で、人生には幾度か危機的状況が訪れることがあります。その困難を乗り越えるとき、心の中に誰かの存在がいるということが大きな支えとなるのではないのでしょうか。心の中に誰かの存在が生きている。共に生活をしている人、遠くから応援してくれる人、過去に出会った様々な人達、誰かが少年たちの心の中に存在すれば、きっと日々を生きていける。それを選ぶのは本人であっても、私達は誠実に優しさを持ちながら彼らに向き合っていくことが大切なのです。

そんな想いを込めながら、湘南つばさの家は多くの人達に関わって頂いています。この通信を読んで下さる支援者の方々、定期的にホームに来てくださるボランティアの方々、そしてつばさの家を支えているスタッフ。皆の暖かい想いがいつしか少年たちの心に届くことを願って日々を積み重ねています。

福祉とは誰かの存在が心に根付き、優しさのバトンを後世に受け継いでいくことではないでしょうか。

今後とも湘南つばさの家をどうか宜しく願い申し上げます。